

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立楠見東小学校	棚田 修司
学校所在地		
〒 640 - 8471 和歌山市善明寺150番地の1 Tel 073 (451)3423 fax 073(451)3424 e-mail kusumihigashi@wakayama-wky.de.jp		
担当者名		役職名・担当教科
三上 祐佳里		6年学年主任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>楠見地区は、和歌山市の北部に位置し、北は和泉山脈の南斜面、南は紀ノ川の堤防沿い、東は鳴滝川、西は南海電車線沿いに区切られた地域である。地域内には、弥生時代の倉庫群と考えられる鳴滝遺跡や日本でも珍しい馬冑。馬甲が出土した大谷古墳などがある。本校は、宅地造成にともなう人口増加により、楠見小学校が超マンモス校になり、これを解消するため、3分割して生まれた学校である。特別支援学級を含め、学級数は14、職員数は25人、全校児童数は304人である。</p> <p>「どの子にも豊かな心と学力を」をテーマに研究主題を「一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成」とし、国語科を中心教科として子どもたちの伝え合う力、コミュニケーション能力の育成をめざしている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 45名	6名 職員 3名	教室・世界遺産センター・熊野古道
実践研究テーマ		
一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
国語科・総合的な学習の時間	国語科「未来をよりよくするために」総合「和歌山県の世界遺産を知ろう！」	
〔キーワード〕 和歌山県 熊野古道 世界遺産		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県には世界に誇れる世界遺産があることを知り、その環境の大切さを考えるとともに、自分たちのまわりの環境も大切にす気持ちと態度をもつ。 ・互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる。 ・よりよい未来を巡る自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、適宜図表やグラフなどを用いることができる。 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体13時間（「次世代育成事業 熊野古道を体験しよう」 5時間）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター …次世代育成事業 世界遺産入門 和歌山県世界遺産マスター</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	「未来をよりよくするために」 (国語科 2時間) 導入・・・自分たちの未来をよりよくするためにできることを考える。	・学習計画をはっきりとさせることで、単元を通しての活動に見通しを持たせる。 ・自分の思いや考えをノートにまとめる方法を明示する。	・単元の活動に対して、興味を持つことができているか。(発言・ノート)
2	次世代育成事業に参加することで、和歌山県や自分の身の回りの環境について身近に考える機会を持つ。 (総合的な学習の時間 5時間)	・次世代育成事業で体験するにあたり、本宮町や実際体験する熊野古道の場所について、基本的な情報をあらかじめ学習しておく。	・興味をもって積極的に活動に参加することができているか。 (発言・態度)
3	国語科「未来をよりよくするために」 (国語科 4時間) それぞれが選らんだことに関して、資料を集め、意見文を書く。	・意見文の構成について、教科書に提示されている見本をもとに、「はじめ」「中」「おわり」を意識させる。	・自分の意見に必要な情報を収集し、意見文を書くことができているか。 (意見文)
4	国語科「未来をよりよくするために」 (国語科 2時間) お互いの意見文を読みあい、感想を伝え合う。	・意見文を読みながら、良いところや分かりにくいところのメモを取るように声をかける。また、それぞれノートに整理できるように、指導する。	・友達の意見文について、適切にアドバイスすることができているか。 (発言・感想)
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>国語科「未来をよりよくするために」を中心に、和歌山県や自分達の身の回りの環境を身近に考えられるよう単元を構成した。国語科では意見文を書く活動を中心に、自分達の未来について考え、自分達ができることを考える。その際、次世代育成事業に参加し、実際「紀伊山地の霊場と参詣道」を体験することで、教科書にある机上の考えでなく、実感を持たせることができていた。</p> <p>課題として、単元計画の流れがこれでベストであったのか見直す必要があると考える。意見文を書く際、文章中で効果的に次世代育成事業での体験が使われておらず、子どもたちの意識のなかでうまくつながっていない児童もいたように思われる。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>和歌山市で生活をしていると、和歌山県に世界遺産があること自体を意識していない。何か自分達とは違う地域の自分たちとは関係のないものと思っている児童が大半である。実際に世界遺産に指定されている地で話を聞き、自分たちの足で歩くだけでも、子どもたちにとっては貴重な体験であり、和歌山県の世界遺産を意識するきっかけになっていた。</p> <p>教科書や本、新聞やニュースで情報を受け取るのではなく、実際自分の目で景色をながめ、山の空気を感じることで、子どもたちの心に残る体験となっていた。今すぐに何か形になる学習ではないかもしれないが、世界遺産学習で得ることのできた感動体験は、今後の子どもたちの意識に変化を与えるものである。</p>			
〔世界遺産学習の改善点〕			
<p>講話内容が「紀伊山地の霊場と参詣道」だけでなく、世界遺産全般についてのもことから始まっていたため、子どもたちには分かりにくかったように感じた。どちらかというと「紀伊山地の霊場と参詣道」の説明から入り、世界遺産一般の話に広げたほうが分かりやすかったのではないかと思う。</p>			

様式 2

平成27年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

10月16日（金）に、田辺市本宮町にて行った。

まず初めに、和歌山県世界遺産熊野本宮館で、仲先生より世界遺産についての概略と和歌山県にある世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についてお話を1時間ほど伺った。世界遺産がどのようにして始まったのか、毎年どのようにして指定されていくのか、さらに世界遺産にしてされた地域だけでなく、その周りの環境を守ることが、世界遺産を守ることにつながっていくことなど、具体的な事例もまじえてお話をしてくださった。



昼食後、熊野古道体験を行った。昼食時には、大斎原の鳥居や熊野川の向かいの山を眺め、「緑が多くて、きれいなところだ」と感想を話す児童が多かった。

三軒茶屋への入り口である平岩口までバスで移動したあと、それぞれの学級に分かれて案内をしていただいた。三軒茶屋までは舗装された道であったため、子どもたちも歩きやすい様子だった。

三軒茶屋では、高野山と紀三井寺への案内が書かれた石碑を見学し、昔はお寺や神社を目印にして旅を行っていたことなど説明していただいた。ここからの山道では舗装もなくアップダウンもあったため、歩きにくい様子ではあったが、世界遺産マスターの方々のお話を聞きながら楽しく歩くことができていた。

途中、展望台を通り祓戸王子を経て、歩き始めて1時間30分ほどで、熊野本宮大社に到着した。



全体での話のあと、2グループに分かれて熊野本宮館内の案内をしていただいた。

館内展示の地図や模型を使い、和歌山県にある世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の位置関係や熊野地方に伝わる伝承、歴史など分かりやすく教えていただくことができた。

具体的な地図や模型を使ってお話であったので、子どもたちも内容をイメージしやすく、興味をもって聞き入っていたようだった。



本宮大社では参拝の仕方も教えていただくことができた。子どもたちはそれぞれ「成績アップ」や「中学合格」などお願いしていたようだった。

和歌山市からの参加であったため、移動時間が長くなり、実際本宮町での活動は4時間程度だった。しかし、お天気にも恵まれ、子どもたちにとっては新しい和歌山県の姿に出会えた一日となった。

